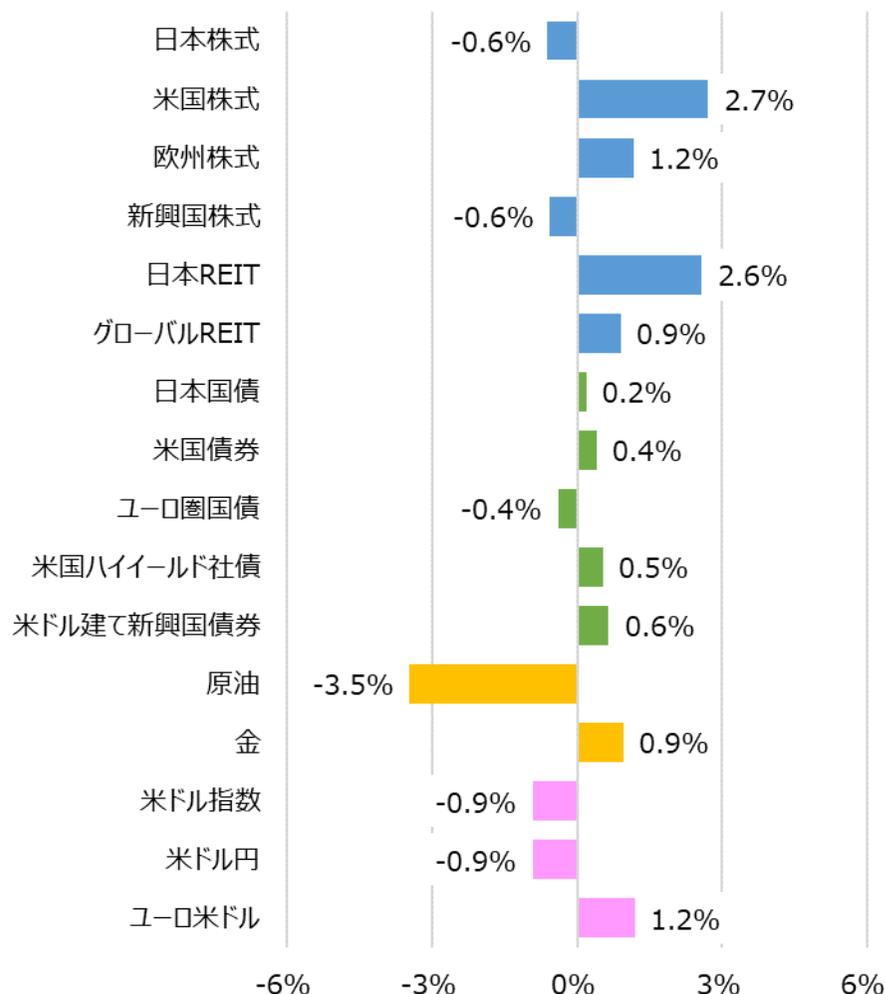


Weekly Market Review

期間：2021年4月5日～2021年4月9日



【日本株式】

4月下旬から本格化する3月期決算企業の業績動向を見極めたいとして手控えムードが拡がりました。政府が東京都など3都府県の一部地域に「まん延防止等重点措置」の適用を決めたことも、経済活動の正常化が遅れると警戒されました。一方、**国際通貨基金（IMF）が最新の世界経済見通しを発表し、2021年の世界の経済成長率を上方修正したことで**、世界の景気敏感株と言われる日本株の支えになりました。

【米国株式】

ダウ工業株30種平均株価とS&P500種株価指数は揃って最高値を更新しました。2日発表の雇用統計が良好な内容だったことや、**ISM非製造業景況感指数が統計開始来の最高を記録したことで**リスク選好が強まりました。ワクチン接種ペースの加速やFRBの緩和政策維持見通しも買い安心感に繋がりました。

【欧州株式】

STOXX Europe 600種株価指数とドイツ株式指数（DAX）は過去最高値を更新しました。ユーロ圏とドイツ・フランスなどの企業購買担当者景気指数確定値が速報値から上方修正されたことや、英国の行動規制緩和などが好感されました。一方、EU当局が英アストラゼネカ開発のワクチンにつき、副作用と見られる症状との関連性を認め、**欧州の数カ国が接種年齢を制限したことは重荷でした。**

【新興国株式】

中国人民銀行が市中銀行に与信抑制を要請したと伝わり、**金融引き締め観測**から中国の大型ハイテク株が売られ、指数の押し下げ要因となりました。米商務省が安全保障上の懸念から中国のスパコン開発企業など7社に事実上の禁輸措置を科すと発表し、バイデン政権下で米中ハイテク摩擦が一層激化すると警戒されました。**IMFがFRBなど先進国中銀が想定外の金融引き締めを実施すれば新興国からの資金流出に繋がると警告**を発したことも重荷でした。

【日本REIT】

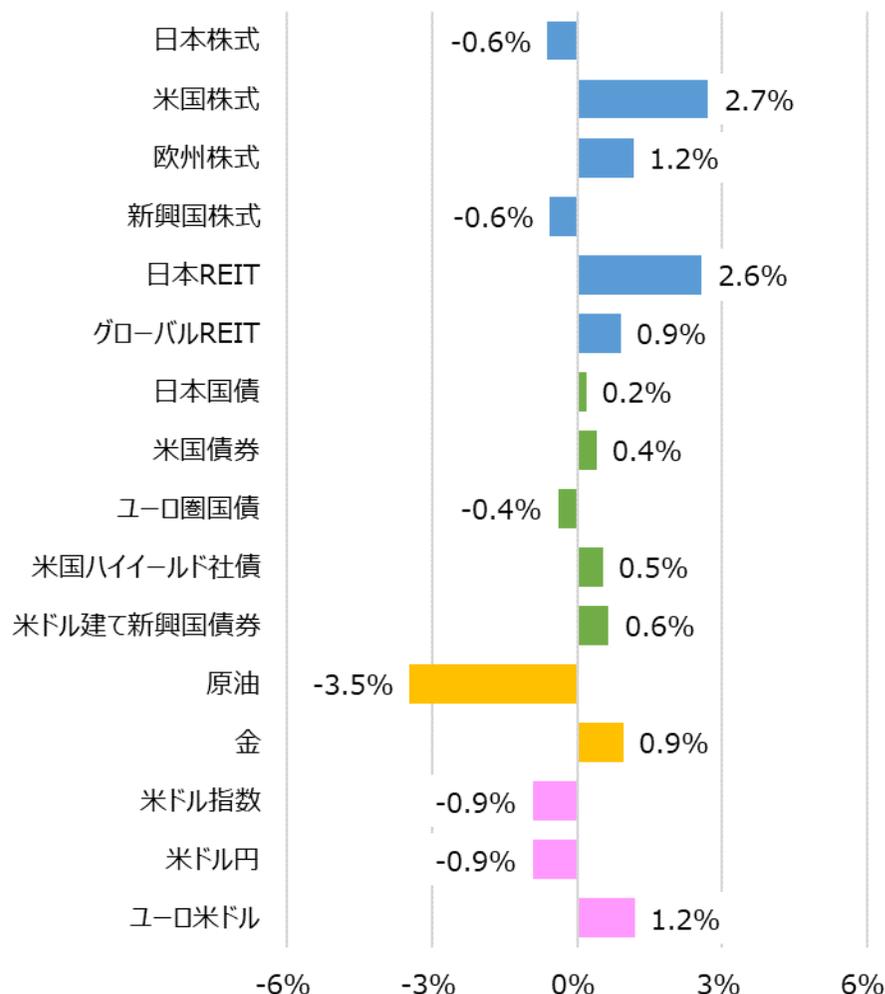
日米で長期国債利回りが低下したことで、分配金利回りの高さが再評価され、上げ幅が大きくなりました。三鬼商事発表の東京都心5区のオフィス空室率は2014年12月以来の高水準となりましたが、今後の回復への期待が強く、**オフィスの貢献度が**大でした。

【グローバルREIT】

米国の他、日本や豪州・カナダがリターンに貢献しました。米国用途別では物流やリテールの貢献度が大きくなりました。米ドル安が米ドルベースの指数リターンを押し上げた面もありました。

Weekly Market Review

期間：2021年4月5日～2021年4月9日



【日本国債】

1日の**10年国債入札**に続き、6日の**30年国債入札**、8日の**5年国債入札**がいずれも**堅調な結果**となり、需給の引き締まりを意識した買いが優勢でした。大阪府で1日当たりの新規感染者数が過去最多となり、「医療非常事態宣言」を発令するなど、国内のコロナ禍収束には時間がかかるとの見方も安全資産とされる国債の買いを促しました。

【米国債券】

パウエルFRB議長が**金融緩和の縮小には経済指標の一層の改善が必要**との見解を示し、買い安心感に繋がりました。バイデン政権が打ち出した新たな**長期インフラ投資計画**に**野党共和党が強硬な反発**を見せ、規模の縮小など修正を迫られるとの見方から国債増発懸念が後退したことも追い風でした。一方で9日発表の卸売物価指数の伸びが加速し、特に前年比では2011年9月以来の高い伸び率となったことで同日の債券相場は軟調でした。

【ユーロ圏国債】

ECB理事会議事要旨では、**年後半に資産購入ペースを減速させる可能性**について議論されたと明らかになり、オランダ中銀総裁も同様の趣旨の発言をしたことで軟調な展開でした。特に周辺国債はイタリアやポルトガルなどで国債入札・売出しが予定されていたことから需給悪化懸念も重なり、下落幅が大きくなりました。

【米国ハイールド社債】

米国株式相場が堅調だったことから**クレジットスプレッドが縮小**しました。景気敏感の消費セクターやエネルギー、通信など幅広いセクターがリターンに貢献しました。

【新興国債券（米ドル建て）】

基準となる米国債利回りの低下に加え、**クレジットスプレッドの縮小**から堅調なパフォーマンスでした。スリランカやインドネシア、アンゴラなどの貢献度が大きかったです。

【コモディティ（金・原油）】

金は**米長期金利の低下**から金利の付かない資産というデメリットが薄れ、また、**米ドル安も代替基軸通貨とされる金の投資妙味を高め**ました。原油は5日に急落しました。イラン核合意当時国の協議が6日から始まるため、**米国が合意に復帰すれば経済制裁が緩和され、イランの原油供給が増えるとの観測**から売りが膨らみました。

【米ドル指数】

米ドルは米長期金利の低下やリスク選好の強まりから幅広い通貨に対して売られました。足もとで上昇基調が続いていたため、**利益確定売り**も出やすい状況でした。

当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてPayPayアセットマネジメント株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「アストマックス投信投資顧問株式会社」から変更いたしました。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ